

研究・調査報告書

報告書番号	担当
252	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Causal inferences regarding prenatal alcohol exposure and childhood externalizing problems. 胎児期のアルコール曝露が小児期に顕在化する問題に与える影響について	
執筆者	
D'Onofrio BM, Van Hulle CA, Waldma ID, Rodgers JL, Rathouz PJ, Lahey BB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arch Gen Psychiatry. 2007; 64: 1296-304	
キーワード	
胎児期アルコール曝露、 小児問題行動	
要 旨	
<p>(目的)</p> <p>胎児期のアルコール曝露は問題行動や犯罪、注意障害、衝動性障害、アルコール性障害といった子孫に顕在化する問題と関連があるとされている。胎児期のアルコール曝露が小児の精神神経行動に与える影響は遺伝的要因によるものか環境要因によるものかはこれまでの検討では明らかにされていない。胎児期のアルコール曝露と子孫に顕在化する問題を遺伝的要因と環境要因を考慮して米国の代表的な家族集団において検討する。</p> <p>(方法)</p> <p>本研究は the National Longitudinal Survey of Young と the Children of the National Longitudinal Survey of Youth のデータをもとに、4912人の母親とその子ども8621人を対象として15年間の繰り返し調査を行い検討した。解析では母親と家族の特性を調整し、胎児期の他の精神作用物質曝露についても調整された。初期解析では胎児期のアルコール曝露の有無によりその小児をグループ化し、母親から得た情報により4歳から11歳の子供の問題行動について比較した。</p> <p>(結果)</p> <p>遺伝的要因や環境要因とは独立して胎児期のアルコール曝露と小児期の問題行動は関連を認めた。胎児期にアルコール曝露を受けた小児の問題行動指数は胎児期にアルコール曝露を受けていない小児の指数より0.35標準偏差大きい。しかし、胎児性アルコール曝露と注意障害、衝動性障害は胎児性アルコール曝露を受けていない小児と比較すると関連を認めたが、胎児性アルコール曝露量すなわち母親の飲酒頻度が多いほど子孫の注意障害、衝動性障害が多いわけではなかった。追加サブ解析結果からは精神作用物質曝露は胎児性アルコール曝露と注意障害、衝動性障害との関連に影響を及ぼすことが示唆された。</p> <p>(結論)</p> <p>本研究結果により胎児期のアルコール曝露は小児期の問題行動の原因となる環境要因に影響を与えていることが明らかとなった。しかし、胎児期のアルコール曝露と注意障害や衝動性障害の関連は母親の妊娠中の飲酒と関連するほかの因子の影響を受けている可能性が示唆された。</p>	